**【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 2 日 (11 月 8 日午後)】出場選手コメント**

◆男子 400m　T47　予選

・石田　駆(愛知学院大学)

初めての世界選手権で緊張したが、パラ転向後まもなくで、大舞台に立つことができ新鮮な思いもあった。

タイムはもう少し出して、予選から記録を狙って思い切っていこうと思っていた。明日の決勝に向けていい刺激になった。しっかりケアをして、決勝ではバックストレートの走りやホームストレートの最後の粘りなど、力まないことを意識して 49 秒前半を狙って走りたい。

◆男子 200m　T64　予選

・井谷　俊介(SMBC 日興証券)

スタートでは反応もよく、コーナーを抜けても強豪選手がよく見えていて行けると思ったが、コーナーから抜けるときにうまく加速ができなかった。ゴールの瞬間は予選落ちだと思って悔しい気持ちだったが、タイムも 23 秒 49。悪かったなりに、明日もう 1 本走れるので、よかった。明日は今日ダメだった、コーナーの出口の 2 次加速を意識して修正していけば、もう少し戦える位置に行けるのではないかと思う。

◆男子 1500m　T11　決勝

・和田　伸也（長瀬産業）

4 位以内を意識しながらやってきたので、よかったです。予選、決勝と自己ベストで最高の結果。順位は 4 位ですが、前の 2 選手が早すぎました。落ちてくると思ったが、すごく強かった。ラストは追いつこうと思って気合を入れました。去年 9 月から長瀬産業に転職し、競技に専念できる環境になり、トレーニング時間が増え、心にも余裕ができたことが力を出せた理由の一つ。

中田崇志ガイド

前の選手と差があったが、予定通りのペースだった。和田さんは本当にいい走りで、集中していた。ラスト 300mからのスパートはすごかった。（エクアドルの選手を）ひっくり返せたのはラスト 5m。15m ではいかれたと思ったが、脚が止まりかけていた相手と力を残していた和田さんとのの差がありました。

・唐澤　剣也（群馬県社会福祉事業団）

結果は悔しいものでしたが、予選、決勝を通して、しっかり課題が見つかったので、次に向けて頑張りたい。課題はスピード不足やラストの切り替え、「よしいくぞ」というところでリラックスして切り替えられるような技術など。次は、5000m が残っているので、気持ちを切り替え、頑張りたい。

茂木洋晃ガイド

１、２周目は予定通り積極的にうまく入れたが、3 周目以降は世界のレベルの高さを思い知った。まだ力が足りないと思うところもあるので、5000m ではしっかり覚悟を持って、また東京パラに向けて頑張りたい。

・澤田　優蘭（マッシュスポーツラボ）

記録に対しては納得いくものではなかった。助走がいつも通りにできず、踏切が全体を通してはまらなかった 2 点がよくなかった。初の世界選手権という緊張感はあまりなかったが、「4 位以内に入りたい」「5m40 以上は必要だ」などとずっと考えていたので、気持ちと体が一致しなかった。反省点。コンディションはよく、前日調整でも踏切もよく、はまれば自己ベストにいけると試合に望んでいた分、悔しいし、反省が多い。

（コメント協力：星野恭子）